

川岸学園構想(案)(概要)

少子化が進む社会に適応した「魅力と活力ある学校づくり」を推進するため、川岸小学校の長寿命化大規模改修に合わせ、切れ目ない一貫した教育を提供する「施設一体型義務教育学校の設立」をめざすとともに、岡谷市保育園整備計画中期計画に基づき、「公立の幼保連携型認定こども園の校地内併設」により、異年齢の子どもたちをつなぐ、「新たな学び舎の創出」を図ります。

令和5年2月 岡谷市教育委員会



基本方針(4つの柱)

(1) 未来へとつなぐ魅力とやさしさある学校施設の整備

学校施設の劣化度等を踏まえ、次の長寿命化改修は川岸小学校を計画します。整備にあたっては、国の学校施設整備に係る基本的な方針及び岡谷市魅力と活力ある学校づくり推進プラン(ハード整備版)に基づき、校舎配置の工夫などにより資産総量の抑制と長寿命化を基本としながら、次の時代のための魅力ある学校づくりとバリアフリー化等による人にやさしい校舎づくりを推進します。

(2) 学校間をつなぐ小中一貫教育(義務教育学校)への移行

小学校施設整備に合わせて、西部中学校と施設間をつなぐ整備を検討します。併せて、少子化に対応した学校運営の効率化や出会いの場となる交流の場等、魅力を高める学校づくりと学校間連携を強化し、一貫したカリキュラムマネジメントのもと教育を実践する、市内初の義務教育学校への移行をめざします。

(3) 幼児期からのつながりある学び舎の創出

川岸地区の校地特性を活かし、幼児期から学齢期へと円滑に接続でき、保小中間の連携が容易な異年齢交流の拠点づくりを推進します。幼児教育と義務教育がつながる新たな付加価値の創出により、子どもたちの健全な育成と豊かな学びを提供し、学校と地域の魅力を高め、地域力の強化につなげます。

(4) 地域に支えられ、地域とつながる新コミュニティ・スクールの導入

地域に支えられ、開かれた学校づくりを更に推進するため、既存の学校評議員や学校運営委員会の組織を見直し、国の枠組みをもとにした新たな岡谷版コミュニティ・スクール(学校運営協議会)への移行を検討します。

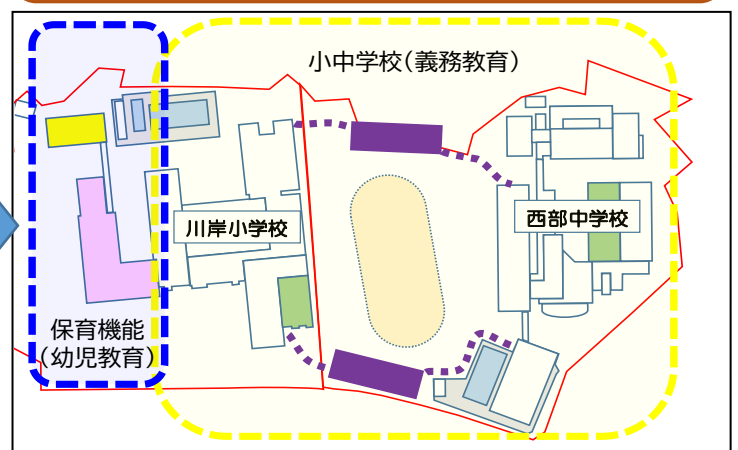


これら4つの柱を基本に、未来につなぐ幼児期から教育の要素を取り入れた地域の新たな拠点づくりを「川岸学園構想」と銘打ち、順次取り組みを進めます。更に、魅力と活力ある学校づくりが地域に広がり、川岸地区の均衡ある発展と活性化につなげていきたいと考えています。

現在の小中学校 施設配置状況



幼保小中併設による新たな学び舎の創出(イメージ)



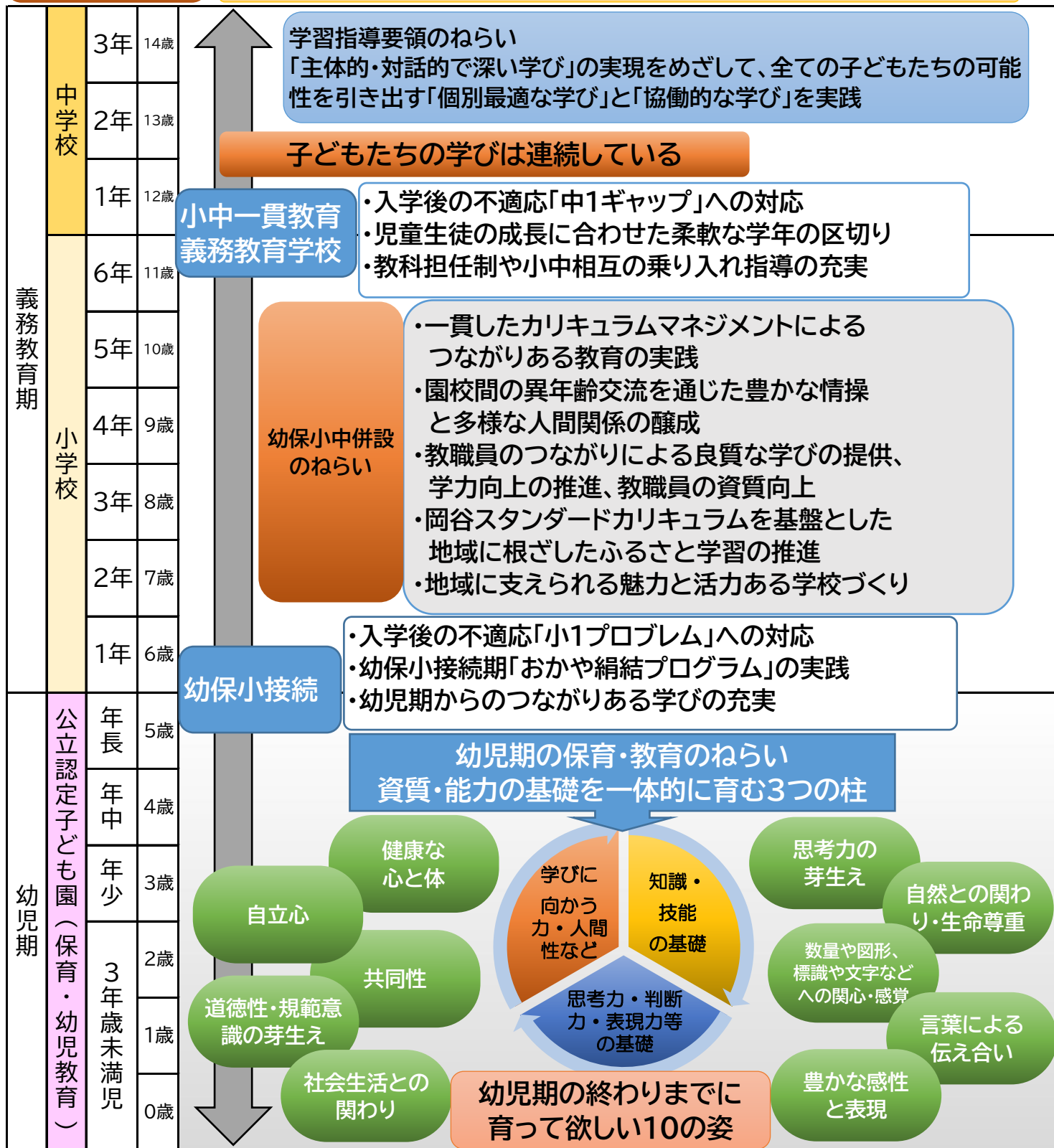
※施設の具体的な配置計画等は今後の検討となります。

川岸学園構想(案)

～異年齢の子どもたちをつなぐ、新たな学び舎の創出～(ねらい)

学校教育の重点

生き抜く力と創造力、知的好奇心溢れる心豊かなひとづくり



川岸学園構想 基本方針 (4つの柱)

- ★未来へとつなぐ魅力とやさしさある学校施設の整備
- ★学校間をつなぐ小中一貫教育(義務教育学校)への移行
- ★幼児期からのつながりある学び舎の創出
- ★地域に支えられ、地域とつながる新コミュニティ・スクールの導入